



村小だより

平成29年5月11日発行

創立記念日に 一校長室にてー

校長 鈴木 正美

若葉茂る5月。今日は村上小学校の144回目の創立記念日です。朝から雨が降って少々肌寒い一日となりました。連休中ではありますが、来週からの諸準備等もあり、私は朝から学校にて便りを作成したり……したりしているところです。

ところで、村小の創立記念日はいつなのか、ご存じでしょうか。それは5月6日です。現在の前身にあたる村上校・大町校・上片町校が開校されたのが、1873(明治6)年5月6日なのだそうです。

それから現在までの経緯を簡単に追ってみます。

1887(明治20)年には、村上校は尋常科村上小学校(本町学校)に、大町校は上片町校を合併し尋常科村上町小学校(町学校)となりました。そして、その60年後の1947(昭和22)年には、村上本町校と村上町校が統合して村上町立村上小学校となり、その後、1954(昭和29)年の市制施行により村上市立村上小学校となりました。この統合以来、県下最大のマンモス校規模が、村上南小学校と分離するまでの30余年続きました。1981(昭和56)年に新校舎が完成し、現在に至っています。

さて、連休明けからマラソン大会(5/18)に向けた全校練習が再開されます。各自のめあて達成に向けた自分との戦いやライバルとの競い合いを意識した練習を通して、心身をたくましく鍛えること、互いに励まし合いながら共に高まることの大切さを学年に応じて感じ取ってほしいと願っています。

今年度も学校説明会(4/21)で、参加された皆様には以下のことをお願いしました。

- ◆ 「村上小学校グランドデザイン」に示した様々な取組は、保護者の皆様と目指す方向を共有し、協力して進めていくことで、教育効果を高め、お子様のよりよい成長、大きな伸びにつながると確信しています。

家庭と学校は「車の両輪である」と言われます。私は、その「両輪」の意味するところには、内容によって3タイプあると考えています。

タイプ1は家庭と学校は、「左右の車輪」。互いに思いを同じくして、舵を取り、家庭でも学校でも子どもに働きかけ、導くというイメージ。(自他の命を大切にする思いや行動、思いやりの心やいじめや差別をしない、許さない、見逃さない心の育成等)

タイプ2は「駆動輪が家庭、もう一方が学校」(基本的生活習慣、食生活等)

タイプ3は「駆動輪が学校、もう一方が家庭」(学力や体力の向上、人間関係づくり等)

この「両輪」の意味するところをご理解いただき、役割を明確にして、皆様とともに、村上小の教育を進めていきたいと思います。

- ◆ 変な願いをしますが、「子どもの前で学校批判、担任批判をしないでほしい」ということです。子どもにとって家族は大好きで頼りにしています。また、学校、担任のことも少なからず好きで、頼りにしているものです。自分が頼りにしている人が、自分の頼りにしている人を批判するのを子どもが見聞きするということは、「子どもを迷わすことにつながり、心が不安定になることが多い」のです。

私たち教職員も子どもたちのために精一杯努めますが、いたらない点もあるかと思えます。そのようなときには、是非電話、手紙、面談等の方法で、直接お考えを伝えてほしいと思います。よろしくお願いします。

